

Webアプリケーション開発演習

コネクションプール



前回までの学習内容

- フィルターとは
- ・サーブレットが動く前に動く
- ・3つの決まり
 - OFilterインターフェースを実装する!
 - OdoFilter、init、destroyの3つのメソッドを実装する!
 - O@WebFilterをつけてURLとフィルターを関連づける!
- ・フィルターの使用用途
 - ・複数の画面で共通の処理を行う場合
 - →文字化け対策やログインチェックでよくつかわれる





コネクションプールを理解する



目次

- ·DBの接続方法の問題点
- ・コネクションプールとは?
- ·演習

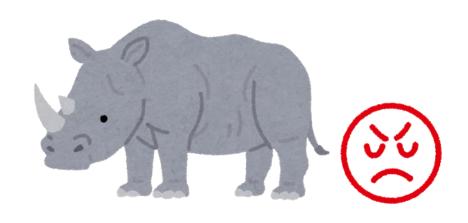


目次

- ·DBの接続方法の問題点
- ・コネクションプールとは?
- ·演習



DBの接続方法について今まで学んだ方法をまずは再度、復習しましょう。





DBの扱いは↓のようなコードでした

```
接続
'/DBの接続₄
Class.forName("com.mysql.ci.idbc.Driver");
con = DriverManager.getConnection(↓
      __jdbc:mysql://localhost:3306/webtestdb?characterEncoding=UTF-8&serverTimezone=J8T",
      "root", "password"); 4
      SQLの組み立て
stmt = con.prepareStatement("SELECT * FROM user_tbl");
                                                          &実行
rs = stmt.executeQuery();↓
MemberDto member = new MemberDto():⊿
                                                結果の取得
   member.setMail(rs.getString("mail"));↓
   member.setName(rs.getString("name")); ]
   لى:(list.add(member
```



実はこのコード、ある問題があります

```
7777777777777
//DBの接続』
Class.forName("com.mysql.cj.jdbc.Driver");
con = DriverManager.getConnection(↓
      ~jdbc:mysql://localhost:3306/webtestdb?characterEncoding=UTF-8&serverTimezone=JST~,
~root~,~password~);↓
//SELECT文の発行』
stmt = con.prepareStatement("SELECT * FROM user tbl"); 4
rs = stmt.executeQuery():
//DBから値を取得』
while( rs.next() ){↓
   MemberDto member = new MemberDto();↓
   member.setMail(rs.getString("mail"));↓
   member.setName(rs.getString("name")): ]
   list.add(member);↓
```



DBの処理は

- 1. DBの接続
- 2. SQLの組み立て
- 3. SQLの実行
- 4. (必要であれば)結果の取得

問題です。この処理の中で一番重たい(遅い)処理は何でしょう?





正解は・・・

- 1. DBの接続の
- 2. SQLの組み立て
- 3. SQLの実行
- 4. (必要であれば)結男 取得

DBの接続が 一番重い!



Webアプリケーションでは DBからの値の取得や設定を何度も 行います。

重たい処理を何度も行うと 全体のパフォーマンス(速度)に影響 します。



目次

- ・DBの接続方法の問題点
- ・コネクションプールとは?
- ·演習



この問題を解決するのが今回のテーマ

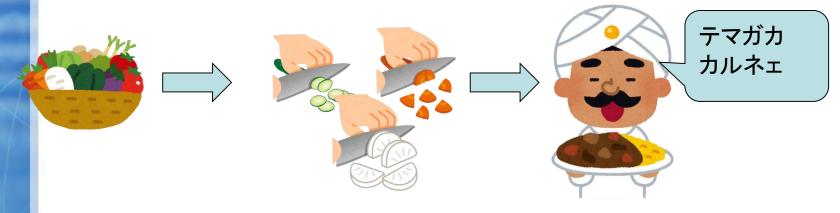
コネクションプール



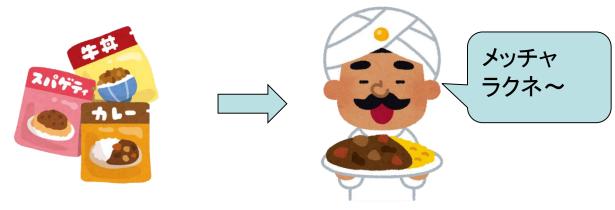
コネクション 7。一ルとはとは、 データベースにコネクション (接続) する場合に、 要求されるたびにコネクションを作成するのではなく、 コネクションを7。一ル(保持)して再利用するという機能です。



たとえるならば・・・ 今までのやり方は、材料からカレーを作るやり方



コネクションプールは、レトルトパックで作るやり方





早速コネクションプールを使った プログラムを動かしてみよう!

2019Web/演習/サーブレット演習/ connection_pooling.zip

ダウンロードして、プロジェクトに インポートして動かしてみよう



コネクションプールのソースコードを 確認しましょう



以前と違う部分は↓の部分ですね

```
String jndi = "java:comp/env/jdbc/MySQL"; -

context = new InitialContext(); -

DataSource dataSource = (DataSource) context.lookup(jndi); -

con = dataSource.getConnection(); -
```

この部分を詳しく見ていきましょう



```
String jndi = "java:comp/env/jdbc/MySQL"; -
context = new InitialContext();↓
DataSource dataSource = (DataSource) context.lookup(jndi);
con = dataSource.getConnection();↓
           接続文字列がない!
```



接続文字列はいったいどこに??





接続文字列はここですっ! context.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>↓
<Context>≠
    KResource≠
        name="jdbc/MySQL"↓
        auth="Container"→
        type="javax.sql.DataSource"→
maxTotal="100"→
        maxIdle="20"↓
        maxWaitMillis="-1"↓
        üsername="root"↓
         password="password"↓
         driverClassName="com.mysql.jdbc.Driver"→
         url="jdbc:mysql://localhost:3306/webtestdb?serverTimezone=JST"
         validationQuery="SELECT 0"→
</Context>≠
```



コネクション
つールでは、context.xmlという設定ファイルに「接続情報」を記述して
JNDI という仕組みを使って、設定情報を
Java側に読み込んで、DBに接続します!

JNDI=

Java Naming and Directory Interface



設定値がたくさんありますね。 一応、どんな意味の設定値か見ましょう

(SEE)

<u>ーナルシーン・プロール A H ロ</u>

	— — — — — — — — — — — — — — — — — — —		
1	設定値	説明	重要度
ď	name	JNDIリソースの名前を指定。	高
	auth	プログラムでログインの手順を書くか、コンテナー (Tomcat) がログインするかの指定 (通常は Container)	低
Ī	type	JNDIリソースのクラス型、インタフェース型を指定する。	低
	maxTotal	同時に割り当てることのできるアクティブな接続の最 大数	中
	maxIdle	プールに保持しておく最大のコネクション数 0の場合は無制限になる。	中
	maxWaitMillis	利用可能なコネクションが存在しないときに待機する 最大時間(ミリ秒単位)	中
	username	DB接続時のユーザー名を指定	高
	password	DB接続時のパスワードを指定	高
	driverClassName	接続ドライバのクラス名	中
	url	接続URL	高
	validationQuery	接続検証用のクエリ	低



設定値はたくさんありますが 必ず知っておかないといけないのは3つ

```
この設定の名前。
<?xml version="1.0" encoding="UTF-</p>
                                 〈Resource〉タグを複数つくれば設定は何
<Context>≠
                                 種類も作れる。
   KResource≠
       name="jdbc/MySQL"
       auth="Container"↓
       type="javax.sql.DataSource"↓
       maxTotal="100"→
       maxIdle="20"↓
                                 ユーザー名とパスワード
       maxWaitMillis="-1"↓
                                DBに接続するために必要
       username="root"↓
        password="password"→
        driverClassName="com.mysql.jdbc.Driver"→
        url="jdbc:mysql://localhost:3306/webtestdb?serverTimezone=JST".
        validationQuery="SELECT 0"→
</Context>↵
```



先ほどの context.xml の設定値を Javaのプログラムで読み込んでいるとい うのを意識して、もういちどプログラムを 見てみましょう!



```
String jndi = "java:comp/env/jdbc/MySQL"; +
context = new InitialContext(); + 初期化
```

con = dataSource.getConnection();↓

見つけた設定のプールから接続 (Connection)を取得(get)する処理 JNDIを使って接続するための設定を探す(lookup)する処理



```
String jndi = "java:comp/env/idbc/MySQL"; -
context = new InitialCon
DataSource dataSource
                          ⊅ataSource) context.lookup(jndi);↵
                       _⁄ction();⊿
con = dataSource.getCo
   (Resource
       name="jdbc/MySQL"。
       auth="Container"→
       type="javax.sql.DataSource
                                   lookupで指定する引数の値と
       maxTotal="100"↓
                                   context.xmlのnameで指定した
       maxIdle="20"↓
                                   値は一致する必要がある!
       maxWaitMillis="-1"↓
       username="root"↓
        password="password"↓
        driverCleschleme="com_muscal_idhc_
```



まとめます コネクションプールを使ったDB接続方法

- 1. context.xmlに接続設定を記述する
- 2. javaでcontext.xmlで指定したname を指定して接続情報をlookup(探す)
- 3. 接続情報(Connection)を取得する

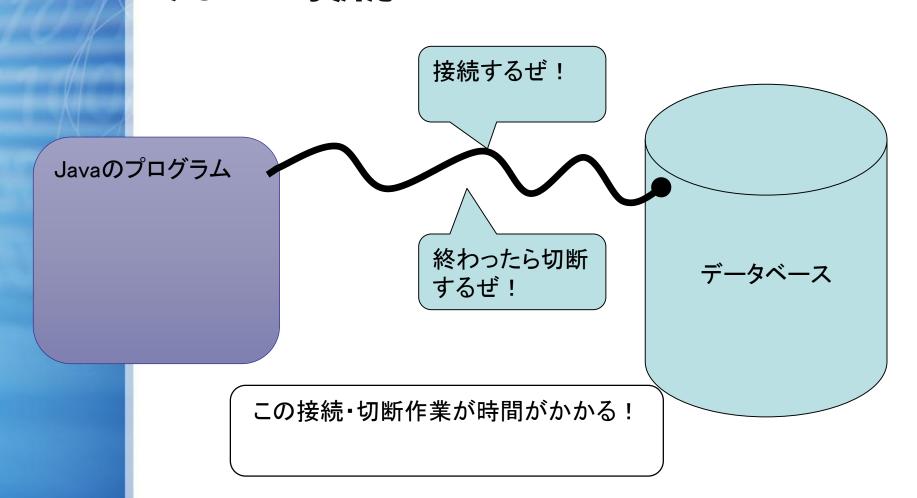


理屈が頭に入った状態でもう一度 コネクションプールを絵で説明します。



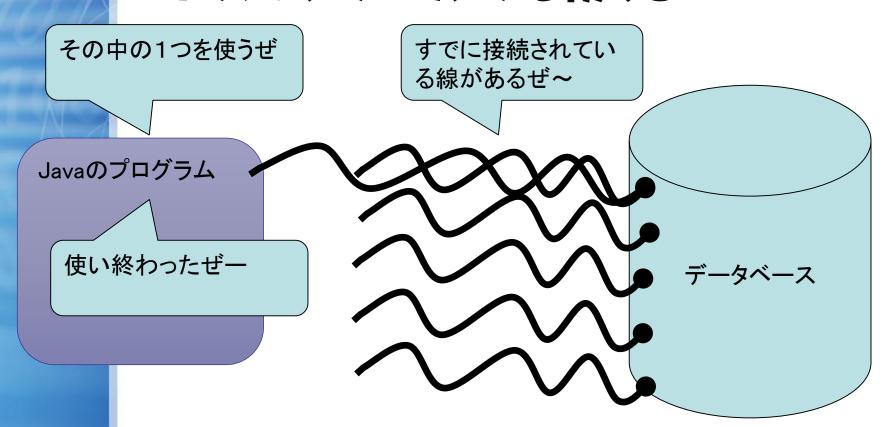


今までの接続・・・





コネクションプーリングを使うと・・・



使い終わった接続は、接続されたまま! 再利用されます!



目次

- ・コネクションプールの説明
- ·演習



【演習】

先日のフィルターの演習の課題を コネクションプールを使ったプログラムに 書き直してください

提出はGoogleClassroom 期限は9月24日中です